



東日本大震災から 204 日 仙台空港アクセス線が全線で運行再開

2011年10月1日 全線運行再開を祝うセレモニーを開催

東日本大震災で被災し、運休していた仙台空港鉄道株式会社の仙台空港アクセス線が10月1日、全線での営業運転を再開。仙台空港駅では関係者らが全線運行再開を祝うセレモニーを行った。

震災では、仙台空港駅1階の運輸司令室を津波が直撃。運転制御を行うシステムがすべて壊れたほか、滑走路の地下を横断するトンネルに海水が流入し、電気設備・信号設備が全損するなど甚大な被害を受けた。仙台空港鉄道では、1階にあった運輸司令室、信号通信機器室などを2階に移設するとともに、架線や架線柱など諸設備を交換するなど、復旧作業を進めてきた。

7月23日からは、名取駅からトンネルの手前にある美田園駅までの区間運転を行い、運休区間は代行バスを運行していたが、震災から204日を経て、いよいよ全線での列車運行を再開。仙台空港駅のホームには、乗降客で賑わう震災前の風景が戻った。

また、仙台空港駅で行われた全線運行再開セレモニーでは、震災の犠牲者に黙禱を捧げ、仙台空港鉄道の齋藤進代表取締役社長はじめ出席者の挨拶の後、仙台空港アクセス線の仙台-仙台空港駅間8駅を表す8本のクロマツの記念植栽が行われ、運行再開を祝うとともに安全運行を祈願した。



ホームに停車する車両



セレモニーで行われたクロマツの記念植栽。
クロマツは名取、岩沼、両市の市木



震災前の賑やかさを取り戻した仙台空港駅



式典につき、会場をホームに移して、
一日駅長による出発式が行われた

